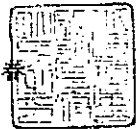


平成20年10月14日

国土交通省道路局長 様

洲子府町長 菊池 一 春



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

標記の件について、別紙のとおり提出いたしますので宜しくお取り計らい願います。

過疎地域では住民の数や構成が大きく変化しており、将来的には一層の高齢化・少子化が懸念されております。

特に、オホーツク圏は医療など生活環境に恵まれた道央圏から遠隔地にあり、その中でも鉄路が存在しない地域にとっては、道路が移動媒体のすべてであり、日常生活にとっても確実に重要な位置付けとなっております。

遠距離移動の要としては、緊急時の際に時間的短縮が図れる高速道路が欠かすことのできない手段となりますが、近隣の中核都市への日常的な移動には、路線バスをはじめとする生活車両にとって、整備された国道及び道道の存在が必要不可欠なものとなっております。

訓子府町においては、国道はありませんが、鉄路が廃止された現在、北見・池田（帯広）間の道路利用の機会が増えており、それにもなって道道北見置戸線についても、輸送大型車など交通量が増加しております。

道路網の密度が低い訓子府町においては、安心・安全・快適に走行できる広域交通ネットワークの早期形成は必要不可欠であり、また、広域交通ネットワークと接続される道道・町道の交通安全対策も充分になされなければなりません。

今後、既存の設備をいかに大切に活用していくかという考え方も、さらに重要になって行くものと思われます。そのようなことから、既存道路の維持・補修についても一層の充実が必要と考えます。

既存道路の維持・補修については、町道を含めた地方管理路線全体にもかかわる問題であります。地方財政が立ち行かない現状に置いては、今後、過疎債を活用するなど、新たな財源対策が出来なければ、事業着手が非常に困難な状態であり、早急な制度改正を切に願うものであります。

今後の道路行政についての意見・提案

②－１ 地域の現状と抱える課題

様式 ②

北海道訓子府町

○現状

当町は、ちほく高原鉄道(株)の解散により平成18年にふるさと銀河線が廃止された地域であり、人の移動、物流は全て道路に依存している地域である。特に生命に関わる高次医療機関への搬送を始め、通常の通院、通学その他、基幹産業の酪農における物流など、日常生活を支える生活幹線道路は生命線であり、当該道路の整備や維持管理における交通の確保は最も重要かつ不可欠である。

現在の道路の現状は、道道北見置戸、道道北見白糖線、道道置戸福野北見及び道道訓子府津別線の4路線が道路網として存在するのみである。

さらに、高齢化率も30%と高く、高齢者や子どもなどに配慮した、道路整備や維持管理が重要である。

○課題

- 1 道路網密度が低いため、災害に強い道路整備
- 2 線形改良などによる安全性の向上及び時間の短縮化
- 3 生活路線につながる、高速道路、高規格道路などの高速ネットワークの整備
- 4 北海道特有の冬期間における除排雪の徹底などによる安全性の確保
- 5 農業機械の大型化による道路の拡幅及び路盤の整備
- 6 野生動物(鹿・熊など)の衝突事故防止

当町の道路に関する地域の現状と課題から、道路網密度を高めることが必要であり、まずは道路網として形成されている主要道道2路線の交通を最大限確保されることが現実的で、線形改良の他、豪雨による法面や排水施設の充実強化、冬期間における除排雪の充実などによる災害に強い道路基盤整備が望まれる。また、安全で快適な交通を可能とするため、歩道橋や歩道の設置、情報ボックス整備による道路情報の提供、野生動物の事故防止が望まれる。

これらにより、高次医療機関への搬送を始め、通常の通院、通学の他、基幹産業の酪農における物流など、日常生活を支える生活幹線道路の交通基盤が安全性を備えて充実強化され、町民の生活環境が充実する。

また、通学や通院の足となっているふるさと銀河線代替バスについても、沿線関係市町との連携により運行の継続を図るとともに、町民の協力なども得ながら高齢者や障害者に配慮した町内の交通手段を確保する。